



5月 柳町こどもの森で

保育長 原 美砂

新しいお友達を迎え、在園していた子どもたちも一つずつ進級しました。

入園してきた子どもたちは、初めての場所に戸惑い大きな声で泣いています。

1歳児組にて、みんなが午睡に入る頃、眠れずにお母さんの帰りを待つように保育室の入り口に立って泣いている子がいました。そのそばに寄り添う保育士。

「絵本を読む？」～「イヤイヤ」、「おんぶしようか？」～「イヤイヤ」何を問いかけても「イヤイヤ」と首を振りますが、しっかりと意思表示をしています。「嫌なんだね…」と側で気持ちに寄り添うことで、これから少しずつ安心感が生まれ、信頼関係ができていくことと思います。もうしばらく時間がかかるとは思いますが、今、自分の思いを出している姿はとても大切なことと感じています。その思いをしっかり受け止める大人でありたいと思います。

年長児(5歳児)は各クラスの出欠人数を記入する表を毎日職員室に取りに来してくれます。各クラスをお当番の子どもたちが回ってくれるのです。「おはようございます。回覧板を取りに来ました。」と声を揃えて挨拶をします。進級して年長組になり当番活動をするようになった子どもたちはいつにも増してとてもはりきっている様子が見られます。3月は練習で修了した子ども達と回っていましたが、今は自分たちだけです。背筋が伸びている感じがします。先日のお当番の年長児は回覧板を渡すのに、王子様のようにひざまずいて渡してくれました。一つ大きくなったことが子ども達にとって、とても嬉しいことなんだということを改めて実感しました。

身体も心も大きく育つ幼児期。子どもの心を育てるという視点をもって、温かい眼差しで関わっていきたいと思います。

新年度がスタートし、職員も新しい環境となり、慣れるまでにご迷惑をおかけすることもあると思います。保護者の方にご理解ご協力を頂き、子どもたちの成長を支えていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。